

## 第2回

# 共食について考える

## —子どもの育ちにおける共食の役割—

他者と食事を共にすることを共食といいます。日々の生活の中には、家族団らんの食卓、給食や会食の場など様々な共食の機会があります。共食と相對する言葉に孤食があり、現在一人で食事をする子どもや一人での食事を好む大人が増えています。他者と共に食べる共食という文化は、他の動物とは異なる人間独自の特徴です。

人はどうして共に食事をするようになったのでしょうか。また共食にはどのような意味があるのでしょうか。本講座では、共食のもつ文化的側面と子どもの育ちの中での共食の役割についてお話しします。

近年のコロナ禍の影響もあり加速している孤食の問題、共に食事をする意味について一緒に考えてみませんか？

◆日時：8月31日（土）13：30～15：00

◆定員：30名（先着順）

◆対象：どなたでも

◆講座申込締切：8月16日（金）

◆保育サービス定員：5名〔申込締切8月7日（水）〕



講師

岩森 三千代（新潟青陵大学短期大学部 人間総合学科 准教授）

管理栄養士。担当授業は「子どもの食と栄養」「調理理論」「基礎調理実習」など。共食、食事マナーに関する研究活動を行っている。研究の一環として、地域食材を扱った市民向け食育講座を開催するなど、幼少期から食を通して地域とのつながりを促進する活動に努めている。